

第6回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成31年2月26日
午前9時30分～10時50分
場所 2階 第1会議室

会議の委員出席者

- ・岐阜大学教職大学院 教授 石川 英志
- ・岐阜教育事務所 学校職員課長 村山 邦博
- ・自治会連絡協議会長 翠 治彦
- ・コミュニティ学園運営協議会会長 大熊 龍夫
- ・町 PTA 連合会長 仲島 秀雄
- ・北方中学校長 浅井 孝彦
- ・北方南小学校教諭 大羽 幸恵
- ・北方町議会議員 井野 勝巳
- ・北方町議会議員 杉本 真由美

欠席の委員

なし

会議の事務局出席者

- ・教育長 名取 康夫
- ・学園構想推進室長 浅野 浩一
- ・参事兼総務課長 奥村 英人

書記の出席者

- ・学園構想推進室 係長 佐藤 弘章

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

年度末の大変お忙しい中にもかかわらずお集まりいただきましてありがとうございます。この冬はインフルエンザが大流行ということで岐阜県内の学校でも随分影響があったようですが、皆さんお変わりございませんでしたか。最近は暖かく、春の到来という感じがしてまいりました。私も昨日は大学の前期入試でしたが、前期入試の日に暖かいということはあまりなくて今までは試験というと寒くなるが多かったのですが、そう

いう意味では昨日はよかったなと思っています。しかし暖かくなりますと、次は花粉症の時期ということで私も今はマスクをしておりませんが、ここに来るまではマスクをしていました。みなさまはそちらの方も気がかりではないでしょうか。

さて、前置きはそのくらいにしまして、第6回目の最後の学校構想検討委員会ということでいよいよ意見書のとりまとめを行います。その他に事務局から意見書(案)に対する意見募集の結果についても報告があるということです。1年間に亘って協議を行ってまいりました、みなさまの学園構想に対する思いや願い、ビジョンを具体化するために今日はまさしく区切りといえますか、集大成という会議になりますので改めて色々ご意見をいただきまして実りある協議ができますように、どうぞよろしくお願ひします。

2. 北方学園構想について

- ・意見書(案)に対する意見について
事務局からの説明は以下のとおり

⇒資料1をご覧くださいと思います。今回募集しました意見についてですが、まずは全体的なことを申し上げます。件数は全体で18人(件)の方から意見の提出がありました。その内、町外の方が3名で、岐阜市、瑞穂市の方がいらっしゃいました。意見内容については、いわゆる賛成意見、反対意見又は中立的意見など様々な意見がありましたが、反対意見は同じような内容のものが多いという印象でした。1人の方が知り合いに書かせるからと何枚も用紙を持って行くということがありましたので、似たような意見が出されたのかもしれませんが、ただ、全体的に見て申し上げられることは、意見書の記述に関して、例えば何ページのこの部分をこのようにしてくださいなど、具体的な修正を提案する内容というよりは、意見募集の趣旨とはすこし違うのですが学園構想そのものに対するご意見が多く寄せられたという印象です。個別の意見につきましては、くわしくは資料をご覧くださいとしまして、簡単にふれさせていただきますと、賛成意見としましては、「学力の向上に期待しております。」という意見、「なによりも子どもの安心安全を大切にしたい。」という意見、「義務教育学校そのものに期待しております。」という意見、「学園が地域コミュニティの中心となるように進めてください。」という意見、「財政的な効率化を図っていただきたい。」という意見、「1年生から9年生までという多学年の交流に期待します。」という意見、これは南学園の保護者の方だと思いますが、「中学校が近くなるので安心だ。」という意見、「保護者として期待しております。」という意見、以上のように様々な形の意見があったと思います。

逆に反対意見は主に4点で、「現行のままでいい。」という意見、「デメリットに関する記述がない。」という意見、「マンモス校だからだめだ。」という意見、北学園の道路の関係で管理棟を建てる位置に関するご意見。こういったところが主な反対意見でした。

以上のとおり、様々な意見がありましたが、「北方学園構想に対する意見書」はそもそも

も学園構想を円滑に進めるために委員会としてまとめさせていただく提言という位置づけです。基本的には学園構想そのものに反対という意見については採用できません。その他個別の内容についてですが、まず施設の詳細、建設費用につきましては来年度以降に開校準備委員会などで詳細を決めていく中で決まっていく内容となります。また、いわゆるデメリットに関する記述についてですが、ある意味メリットと表裏一体である部分だと考えています。具体的には、例えば小中一貫校では中学校の先生と小学校の先生が協力して校務を行えば事務の削減に繋がるというメリットの考え方と、学校の立ち上げの時には先生方の事務負担が増えるというデメリットの考え方もあります。このように両方の側面があるような問題については、今の時点でズバリ「デメリットです。」という表現はできないと思います。実際には今後協議が進む中で明らかになってくる部分ではないのかなということを考えています。

そういった点を踏まえまして、今回いただきました意見につきましては、内容によってはすでに意見書に取り入れられている部分もありますが、賛成だから取り入れる、反対意見だから取り入れないということではなく、今後の開校準備委員会の協議の中で参考にさせていただく、という位置づけでお願いできればというように考えております。

委員の主な意見は以下のとおり

○学園構想に直接繋がってくるのか分かりませんが、昨日コミュニティ学園協議会がありました。これから北方学園というものが一つのコミュニティの中心になって、地域の活性化に繋がっていくような役割や地域の方が集い会えるようなそんな場所になっていくといいなと期待しています。学園構想では、北学園と南学園という2つの学校がそれぞれの地域の中心となるという意味から賛同する意見もあり、期待が大きいなというふうに思います。反対意見等については今回の意見書には反映されませんが、これから検討していく時にはこのような点についても十分吟味していく必要があると思いますので、貴重なご意見をいただいたと思っています。

○ご意見いただいたものは貴重なご意見として今後の一つの視点にしなからですが、教員側の視点から見た時には義務教育学校のメリットというものはかなり大きなことだと思います。意見書の8ページにまとめられている内容については、期待や夢が溢れるところがかなり大きいです。デメリットの部分もちろんあるでしょうが、おそらく多くの自治体が進めて行きたいなと思いつつ、現状の小中学校の運営がある中でなかなか上手く進んでいかないのが現実だと思います。北方町ではそれぞれの施設のことも考えた上で義務教育学校を2つ立ち上げていこうという構想ですので、ある意味非常に羨ましい構想であると思っています。

また、単純な例を申しますと、中学校の教員にとって中学校1年生は何もできない新

入りという形で受け入れてしまいます。中学校の教員は、中学校1年生はできない子たちとして、中学校生活すべてを手取り足取り教えていかなければならない存在として捉えてしまいがちですが、実はそんなことはなく、小学校の6年生として全校を引っ張ってぐんぐんやってきた子どもたちなのだということです。小学校と中学校という感覚で言うと中学校の新入りという形になってしまって、恥ずかしい話ですが自分が中学校1年生の担任を持った時、給食の時間に担任自らが白衣を着て子どもたちに給食の配膳などを教えていたという覚えがあります。小学校の6年生たちは逆に小学校1、2年生の子どもたちに教えに行っているわけです。もちろん小学校、中学校の文化の違いはある中でも中学校1年生の子どもたちの力を過小評価していたなど自分の恥ずかしい若い頃のことを思い出しています。そのようなことを思った時に9年間の義務教育学校という構想がいかにか子どもたちの力を子どもたちの実情にあった形での伸ばしていけるのかということを考えていきたいと思えます。

○教員の立場としてですが、北方町全体でこの学園構想に取り組んでいけるということで私は、わくわくしています。今ある北方町の財産、宝物を生かしつつさらに他県の成功事例を見ながら新しいものを創れるということに期待しております。当然デメリットなどもあると思いますが、それは今後話し合っていく中でこうした方がいいのではないかといいご意見も出しながら解決できればいいなと思えます。なかなか新しいことに町全体でチャレンジするという事は、こういう機会でないとなかなかできないことだと思えますので教員としてもとても楽しみだと思っています。

○昨日コミュニティスクールの会合がありました。その中でも地域と学校が一体となって目標を共有することが、子どもたちの成長、地域づくりにも繋がるということを随分思いました。北方学園を新しく創り上げるというところに地域の方も一般の方も参画できることは大変いいことではないかと思えます。作り上げていく課程自体が、コミュニティスクールそのものなのではないかと思えます。

○保護者としては、思春期の小学校から中学校への不安定な時期を落ち着いて笑顔で学校に行ってくれるということは一番の願いです。特に中学校の入学式で子どもたちの様子を見るとものすごく緊張していて、クラスに入っても新しい友達ができるのかといった不安で初めの2、3ヶ月はとても不安定な時期を過ごしています。そのため不登校の子どもが出てくるということも当然理解できますし、不登校ではないけれども一般の子どもたちもかなりストレスを感じていると思えます。ですので、それがなくなることだけでも、子どもたちにとっては勉強が落ち着いてでき、友達もそのまま継続することもでき、先輩とのつきあいもそのままいけるので、本当に保護者としては、すごく期待しているところが大きいです。

○最初、新聞で小中一貫の義務教育学校というのを知りましたが、中1ギャップがなくなるという点や、9年間の中で上級生が下級生に対して色々な指導をしていくような形の中で成果がでるのではないかと考えています。ただ、財源の問題など議会の内では色々な意見があります。私たち2人は議会の代表ではありませんが、全権委任で来ているわけではありませんので、今日の最後に議会としての意見は述べさせてもらいたいと思います。この学園構想の制度的なものについてはこの委員会の中で決めていただければいいかと思っています。この制度自体は、低学年から特色のある英語指導に取り組んでいくという教育方針になっていますので、これは子どもたちにとって、とてもいい構想ではないかと考えています。

○地域の方とお話をしていた時に学園構想が話題になり、地域の方としてもいかに学園を盛り上げていけたらよいかという意見もありました。図面を見てここはこうした方がいいとかいう具体的な意見もありましたので、今後、地域と一緒にこの学園構想を進めていただければよいいと思います。意見に関しては、準備委員会がありますのでそこで反映していただければと思います。これから学園構想に向けて一番は財政面のことが気になるころではありますけれど、そこもうまくクリアしていただければと思います。

○昨年9月の自治会総会時に、町長と教育長から学園構想の素案について説明していただきました。その中で反対意見はありませんでした。その後、この学園構想をよくここまでまとめてくれたと思っています。嫌味な意見もありましたが、いいことも多く書いてあります。検討委員会で出た意見がうまくまとめられていると思います。あとは、開校までにしっかり詳細を詰めて行って欲しいなと思います。

○小中をつなげる仕組みを創っていくことについては、最初は先生たちの中に困惑があると思います。例えば、俺は小学校の教員だけど、私は中学校の教員だから関係ない、とかいうことです。しかし、それがやがて連携が深まれば、小学校とか中学校という言葉が出てこなくなる。子どもを9年間見通して、その子の育ちに関わっていくということのおもしろさとか深さとか、そういうことが教員の中で育ってくると先生自身の力量形成にもつながると思います。子どもを9年間にわたって教育していくということにより、中一ギャップを乗り越えてどんな子どもに育っていくのか。私は非常に期待するところが大きいです。もちろん間に接続期を創っていくという意味で、6年生の子どもたちが上を見て中学校の子どもたちに対して憧れを持つとともに、下を見て小学校の下級生に対して両方の関係性の中でどう関わっていくのか。むしろ下の学年に関わることによって、自分の今後の見通しを創ることができるかいいかなと思っています。それから、今まで北方町においては学校が4つあったわけですが、どっかりと中枢となる2つの学校が

できるということの意義は大きく、地域の教育システムの中核になるものができることによって、そこを中心とした地域との関わり方の仕組みが出来上がってくる。そういった点も期待したいと思っています。今後協議していく中で、さまざまな課題もあると思います。当然のことながら、最初に検討すべき課題と後から出てくる課題といろいろあると思いますが、地域の方と学校とが密にコミュニケーションを取りながら、また、小学校と中学校との先生の距離が近くなっていく中で、とまどいもあると思いますが教員自身の発想が変わってくるということは、子どもに対してもいい影響を及ぼすのではないのか、そんなことを考えています。外国においてもすでにフィンランド等色んな国で研究がされており、今手元に調べたものがありますが、あるいは国内においてもいろいろな動きがありますので、そういったものも視野に入れながら、皆さんと学びながらまた支えていくことができればと思います。

○今回の出された意見は18通ということですが、今の町民の人数から言うと何パーセントの方がこの学園構想に関心を持っているのか不安があります。先ほども少し話が出ましたが、地域住民との意見交換しながら理解をいただかなければいけない。最初、私が一番懸念したのは、真ん中の道路が封鎖されることについて、生活道路、通行量の問題等を考えて自分としてもどうかと思ったので議会に諮りましたが、やはりこの辺りは反対意見の中にも出てきています。確かに議会の中でもこの学園構想の素案についてはそんなに反対する人はいなかったのですが、これから進めるにあたり財源問題や大改修問題については議会の中で反対する議員もおりますので、色んな形の中で議会としては懸念を持っています。これから協議を進めていく中で、道路を廃止することについては、住民の理解を得なければいけないと私は思っています。これからの開校準備委員会では、その辺りもきちんと踏まえた中で各委員が検討を進めて欲しいと思っています。

⇒今検討委員会で各お立場の方々からこの構想については基本的なところをご検討いただきまして、それを基に今度町としての方針を出していくわけですので、その時に町民対話集会であるとか PTA の集会であるとか昨日のコミュニティ学園のことであるとか、いろんな中で丁寧に説明をして進めていきたいと思っています。

○学園構想の基本的な考え方、そういったものはこの文章によってだいたい位置づけされるであろうということを受けて議会の方で相談したわけですが、議会の方としましては、この構想自体に対しての意見は多くなかったのですが、この学校の図面、道路封鎖も含めて図面の工程表はあくまでもこれは案であり、これから議会としても検討する余地があるという意見がありました。それから財源問題ですけれど、予算も認めていない中での工事予定表は誤解される懸念があります。この学校の運営方針と建設事業など予算を伴うものについては切り離していかないといけないと思います。それから南

学園のグラウンドは、狭いと地域団体からの意見があります。地域の方との意見交換会を進める中でやっていかなければいけないし、グラウンドを広げるだけの財源が確保できるのかということも検討課題である、という3点ほどの意見が議会から出ておりますので、その辺りを含みおきください。

※以上の協議の結果、意見書(案)に対する意見については、今後の協議における参考資料とさせていただくことを委員会の方針として決定した。

・意見書(案)について

事務局からの説明は以下のとおり

⇒第5回目の会議の際にお示しさせていただきました案より、修正させていただきました部分は何点かございますので、そこを中心に説明をさせていただきます。まずは目次をご覧ください。今一度この意見書の構成についてふれさせていただきたいと思えます。はじめに、序章で現状と課題について触れております。第1章では、北方町の学校体制のあり方というタイトルですが、いわば学園構想全体についてここで触れさせていただいております。第2章では、早めに決めるべき重要課題であります、学校区の設定について記述しております。第3章は、北方学園の目指す姿、これは学校の教育方針に関する部分がまとめてあります。第4章は、学校施設のあり方についてということでイメージ図をお示ししながら、詳細は今後詰めていく部分が大きいわけですが、そういった内容をここで記述しております。そして、第5章では今後の進め方についてということで、開校準備委員会等、今後の検討組織に関する事項についてここで触れております。巻末には、参考資料ということで委員みなさまの名簿の他、アンケート調査結果、協議経過や広報での資料等をつけております。なお今回、今後のスケジュールを増やしています。以前の案では検討委員会での資料として第5章の中に取り込んであったものですが、実際のスケジュール調整については、検討委員会の中ではなく、今後事務局で考えていくべき部分ですので、あくまで参考資料として取り扱うべきではないかと考え、巻末にもってきました。

それでは修正した点を中心にご説明させていただきます。2ページ目、ここは「はじめに」ということで前回は載っていませんでしたが、座長の石川先生のご意見をいただきましてここに追加させていただいております。次は、5ページをご覧ください。5ページは、学校現場における現状と課題という記述ですが、ここの最後の段落部分ですが、こちらには以前の様式ですと先生方の配分を手厚くするという表現がありました。これは、前回の会議の中で優秀な先生を集めることが目的のような印象になってしまうのではないかと、というご懸念の声がございましたので、ここの表現は「教員の資質能力の向上を図り、指導体制を強化するということも重要です。」というような表現に変えさせていただきました。8ページをご覧ください。8ページの真ん中辺り、義務教育学校の利

点ということでまとめさせていただいている部分ですが、前回の会議の中で6つの項目のうち、始めに教員の指導力向上ということが書いてありましたが、子どもたちに関する項目を始めに持ってきた方が皆さんのご理解をいただきやすいのではないかと、というご意見がありました。そのため、内容を変えているわけではありませんが、始めに安心して中1に進級という項目を持ってきて、順番を変えたという改良をしております。次は9ページです。その他の関連施設について第5節のところですが、ここは最後の段落を足しております。前回の会議の中で、いくらぐらいの削減効果があるのかという数字的なことに関する記述が無いので概算でもいいので足したらどうかというご意見をいただきました。そのため、予算ベースの数字や別の計画等から持ってきた数字ですが、概算でこれぐらいの削減効果が見込めるのではないのかという記述を足したところであります。17ページをご覧ください。学校の特色の部分、3番目の「誇り・自信」～北方町ならではの特色ある教育を実施～という段落ですが、前回の案では、「英語検定等に参加するなど」という直接的な表現がありましたが、ここの表現を「主体的に英語に親しむ姿勢を育てるなど」というように修正させていただきました。次は、18ページです。ここは、2校の特色を生かしてというところを強調したいというご意見がございましたので、「基本理念は同じでも、地域性などの2校の違いをそれぞれの特色として生かし、北方学園としての幅を広げていくことが大切です。」という表現を付け加えています。22ページをご覧ください。第4章学校施設のあり方の太枠の検討委員会としての意見の中で、中段部分に「義務教育学校のメリットである小学校と中学校、(前期課程と後期課程)」と記載しておりますが、これは元々「メリットである小中学校の連携」という表現でしたが、今後北方学園として義務教育学校を目指している中で、「小中」という表現が適切なのかというご意見がありました。ただ、一般の方は前期課程、後期課程といわれても分かりにくいという意見もありましたので、並列表記という形でこの部分の表現を変えさせていただきました。後は細かいことですが、24ページをご覧ください。南学園のイメージということで、前回南小学校の昇降口の辺りですが、ここの2階に図書館を造ってはということでそういった図面を載せておりましたが、その後の検討の中で費用的なことや建物の構造上難しいのではということが分かってきましたので、これも確定したわけではありませんが、その右側に図書館を持ってきてはどうだろうということで、今の段階での案ということで若干変えさせていただきました。あくまで今の段階でのイメージということでご理解をいただければと思います。次に、最後のページをご覧ください。ここに今後のスケジュールについてということで、今後の工事日程の案や開校準備委員会のスケジュール案をここに巻末資料としてもってきています。これは元々第5章学園構想の今後の進め方の中に第3節としてまとめていましたが、検討委員会としてスケジュールを決めるということではありませんので、あくまでも会議の中での資料という扱いで最後に掲載させていただいたという形になっています。

委員の主な意見は以下のとおり

○今回検討委員会としての意見を、各章の頭にその章ごとに集約したものを載せています。それが特に今後の展開において、意見書の重要な中核になると思いますので、そのところにはより注意して検討していただきたいと思っています。分量が多いのであちこち話がいつってしまうといけませんので順番にいきたいと思います。

・第1章について

○1章の一番下に検討を重ねると共に、町民に丁寧に説明しという記述がありますが、私もこういう会議に出席しているので、道路を造るのを反対ということを直接言われたりすることもあります。この、丁寧な説明をして理解を得ながら進めるという部分に対して何か方策はあるのですか。具体的な予定が分かれば、今後このようにして進めていくのでこういう機会で見聞が言えますよ、などと案内できればいいなと思っています。

⇒直接的には、5月の町民対話集会がありますのでその場にはどなたでも参加できます。他には PTA の会合など様々な会議に出席させていただくため、そのような場ですと少人数ですのでよりご意見を伺いやすかなということもあります。また、普段から、教育委員会窓口にお越しいただくか、電話をいただくなりホームページからご意見をいただくなり、いつでもご意見をいただく方法もあります。機会を限定して、ここじゃないと意見が言えないということではありませんので、ご都合に合わせてご活用いただければと思います。

○9ページの最後の部分ですが、関連施設の削減見込み額の記載がされていることもあり、西小学校の跡地をどうするのですか。幼稚園と保育園を統廃合しても財産処分はどのようにおこなうのですか。また37億円程度とあるがそれほどかかるのですか。

⇒このあたりの表現は、計算根拠を記載するとかなり長くなってしまいますが、公共施設等総合管理計画というものは、例えば20年経過したら大規模改修を行い50年経過したら建て直しというように、建物の維持に関する経費を一定のスパンの中での想定に基づいて算出されている数字です。また、その建物ごとの業者などから見積もりを取って出した数字ではありませんので、おおよそ教育施設ですと㎡あたりいくらの金額がかかるから今の施設を維持するのであれば、面積的にいくらぐらいかかるのか、といったざっくりとした数字の積み上げです。どこまでこの数字が正確なのかとおっしゃられると、本文の記述のとおり、あくまでも参考数字ということでご理解いただければと思います。なお、財産処分などについては今後の検討課題です。

○当初、学校施設の維持管理費はこれからどうしていくのか、老朽化していく施設をどう再編していくのか、ということが問題になっていて、学園構想を検討していくなかで合わせて考えようという話になった。ところがこの最初のこの部分を議会に話さないので反発を受けた。こういった構想案があるという話くらいは当初からしておけば議会も反発しないし私も反発はしないけれども、だから嫌なことを頻繁に言うわけです。これから建物の建て替えの予算の話になると議会から意見がたくさんでると思う。私もたくさん出すつもりなので、そのつもりをしておいてください。嫌なことをがんがん言っていきます。

○この学園構想検討委員会にて協議する内容ではない部分も結構ありましたが、今後の協議の中で検討いただくしかないのではないかと思います。ただし、この委員会で意見をお聞きしたということについては汲んでいただきたい。

○小中一貫校の教育方針というものはいいと思います。全国の先進となる事例もありますのでそれについては、いささかの反対もないわけです。ですので、この検討委員会において、意見書は本当にうまくまとまったという気持ちで見えております。

○これは私の個人的な意見ですが、お二人の議会からお越しいただいた委員さんにも是非その辺りのところもいろいろと議会との間でつなげながら、橋渡し役として説明等の役割を担っていただければと考えております。

・第2章については特に意見なし。

・第3章について

○第2節の地域連携についてです。記述にあるとおり、地域コミュニティの核となる存在として、地域に愛される学校となることが大切であると考えます。そのためには、コミュニティ学園における取り組みを今後もますます推進していくこととあり、とてもよいと思います。

⇒第3章以降もですが、事務局で案を作っておりましたところ申し訳ないと思ったところがありまして、最後の語尾が第1, 2章は委員会としての意見なので「する必要がある。」と記載しておりますが、第3章は「目指していきたい。」と書いてありますので語尾としては、「目指していくべきである。」や委員会として語尾は「○○したい。」ということではなく、「諮るべきである。」という風に変えてはどうなのかと思います。このところが委員会としての意見としての総まとめなので委員会の立場で表現するとすればそうではない

のかなと思います。

○3章は、目指していくべきである。4章は、図るべきである。というふうに修正してはどうでしょうか。今事務局から修正についての説明がありました。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○それでは、そのように修正したいと思います。

・第4章について

○南学園の図書館を変えるということですね。建築の問題ですか。

⇒前回をお示ししたものは昇降口の2階部分に図書館を建てられないかというイメージで案を作らせていただきましたが、現実的に建物の耐久性の問題や費用的な部分での問題もあることが分かってきましたので、これで決定ということはありませんが、それならば今のこの図面の位置辺りにこの辺りに建てられないのかということで現時点の案ということでここに示させていただいています。

○南学園の2階は非常に広いスペースをとってあり、個人的に机を持ってきて、教室の中でなくても外でも学習できる広さを持っています。学校の中で図書室というものがどうしても必要なのですか。書棚が必要だとしてもそのスペースを勘案してみてもどうかと思いますが。

⇒図書館といいますか情報センターということで、パソコンも本も一緒に入れて子どもたちが調べられるような、独立した空間が今後必要となります。

○9年間に対応した図書館ということですので、地域の人との関係も出てくる図書館になると思います。図書館というものはかなり知的なリソースとして非常に重要な位置を持っていると思います。お金のかかることばかり申ししていますが、先を考えると図書館をどういう風にデザインするのかということは学校の要になる問題だと思います。今後、このような細かな部分は、部会の中で考えていただきたいと思います。

○駐車場も狭いと思います。プールもどうするのかと思います。南学園の方はまだあまり細かく触れていませんが、これからお金がかかると思います。

⇒子どもたちのために、どんどんよい施設を作ろうとするとお金がかかるわけですが、なるべく効率的な学校運営を目指せば事業費用は少なくなります。施設部会でそこは具体的に詰めていかないといけないと思います。

・第5章について

○この部分のところは、巻頭の「はじめに」のところでハード面となる学校施設を作った後から、ソフト面となる中身を考えるような展開にならないでください、という風にかかれているところとまさしくマッチングする部分だと思います。今後の協議の進め方については、大変大事な位置付けということになっているのでよいと思います。

○意見書案に対する意見についてもやはりその部分をご指摘いただいていると思います。そこを反映させていく形は大事であり、まず、ハードを作った後でソフトをというのではなく、ソフトのことを考えていくなかでハードに反映していく、そういう形にしていく必要があると思います。今後の学園構想の具体化においては重要なポイントになるのではないかと思います。

○ありがとうございました。1章から5章に渡ってみなさまからご意見をいただいたわけですが、それを踏まえまして内容の一部修正等も加えつつ基本的に原案の方向で北方学園構想に関する意見書を完成させたいと考えています。みなさん、ご異議はございませんでしょうか。よろしければ拍手をもってご同意をいただきたいと思います。

※以上の協議の結果、北方学園構想に関する意見書は、拍手多数で同意をいただき本案を意見書として決定した。

・その他

⇒本日この会議で取りまとめいただきました意見書ですが、一部修正がございましたのでその部分と、巻末の会議要旨の部分に今回の分をつけて完成させたいと思っています。そのため、本日は町長に提案ができませんので、後日、3月中旬の予定ですが、必要な修正が整いましたら検討委員会を代表しまして石川座長から町長に提案するという形をとらせていただきたいと思います。みなさまにはそのような形で最終的に町長に提出するというご理解いただきたいと思います。なお、最終的な意見書は完成次第、郵送にてみなさまのお手元にお届けさせていただきます。また、提案後の予定ですが、皆さんにご協議いただいた成果を基に町としての方針を完成させ、来年度以降開校準備委員会等で詳細を詰めていく方向で活用させていただきたいと思えます。

次に、来年度以降の開校準備委員会ですが、委員さんの人選は4月以降に順次させていただきたいと思っています。今回検討委員としてみなさまには大変お世話になりましたが、引き続き委員さんをお願いするなど今後も何らかの形で関わっていただけ

ればと考えております。実際には夏、8月頃に1回目の開校準備委員会を開催できればと考えていますがどうぞよろしくお願いいたします。

最後に名取教育長からこの1年間学校構想検討委員会委員としてご尽力いただきました皆さまにお礼と感謝のご挨拶を申し上げます。

⇒座長の石川先生を始め委員のみなさまには、大変お忙しい中1年間6回に渡り、町の重要な施策である学校構想について慎重にご協議いただきまして誠にありがとうございました。みなさまからご提案いただきました意見書を大切にして町としての方針を決め、そして説明しつつ来年度から準備委員会や部会で具体的に進めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をいただきますようお願いいたします。本当に1年間ありがとうございました。

⇒事務局からは以上です。

○それではこれにて北方町学校構想検討委員会を閉じさせていただきます。1年間に渡り不慣れな司会ではございましたが、みなさまからいろいろなご意見をいただき私も学ばせていただくことが随分ありました。実を言うと、今日が終わりではなく新しいスタートなのだと考えています。また、北方町の今後の義務教育学校の設立の準備にあたっては、みなさまにはこれからもいろいろな役割を担っていただきたいと考えております。義務教育学校の制度はこれまでは小規模校を統廃合していくニュアンスが非常に強い制度だったと思います。その中で、北方学園は率直に申し上げて県で最初の都市型の義務教育学校になって行くと思います。今後の県全体における学校運営のあり方についての一つの重要なモデルになっていくのではないかと私は期待しております。そういう意味で、私たちが気を引き締めながらもやはり楽しく地域の方、行政また先生たちがどんな子どもを育てたらよいかということ語り合いながら学校づくりをしていくことが大切だと思います。これから重要な段階になってくると思います。今後ともよろしくお願いいたします。1年間に渡り大変お世話になりました。どうもありがとうございました。